



八幡湿原

再生目標

牧草地造成前の昭和 30 年代前半頃の湿原生態系を再生する

DATA

エリア：西中国山地国定公園
所在地：広島県山県郡北広島町
着手：H15

八幡湿原自然再生協議会

概要：臥竜山麓八幡湿原地域において
湿原環境の再生を検討。

設立日：H16.11.7

構成員数：36

全体構想作成日：H18.3.31

実施計画作成日：

●H 18.10.30(八幡湿原/広島県)
(H19. 3現在)



(撮影：広島県立林業技術センター)



カキツバタ



ヒメジジミ



湿原内のコンクリート三面張り水路

八幡地区は、広島県の北西部に位置し、1,000 m級の山に囲まれた標高 800 mの盆地です。また、ヌマガヤーマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備

が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成し、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

自然再生の手法

▶ 牧草地造成時の人為的改変の除去

八幡湿原の自然再生では、主に水文環境の整備および現存植生の整理によって湿原植生への遷移を図ること、現存する湿原は可能な限り保全することなどを整備方針としています。また、具体的な事業実施にあたって、湿地植生の有無等によって区域をゾーニングし、周辺林の伐採、水路の撤去、堰堤の整備などの様々な手法を検討しています。

- A** (現状) 湿地植生が存在しない区域等
(対策) 樹木伐採、外来種除去、導水路整備
- B** (現状) 湿地群落が残存している区域
(対策) 樹木伐採、既存明渠埋立て
- C** (対策) 堰新設により洪水時には冠水する区域
- D** (現状) 実証試験を行っている区域
(対策) 実証試験モニタリング
- E** (現状) 湿地植生が存在する区域等 -
(対策) 保全



① コンクリート三面張り水路の撤去

湿原内のコンクリート三面張り水路を撤去し、河床を埋め戻すことにより、川面および対象区域内の地下水位を上昇させます。

② 自然形態の河川の整備

水路整備以前の流路を参考に適宜蛇行させ、多様な水環境を創出します。また、洪水等により崩壊する恐れがある箇所へ護岸や河床を設置します。

③ 河川の堰上げ

取水および防災対策を目的として堰を数箇所を設置することにより、川面および地下水位を上昇させて冠水部分を作り出すとともに、河床勾配を緩和します。

④ 導水路の整備

対象区域の湿潤化を図るため、堰上げ部分から水を誘導する導水路を設けます。

⑤ 町道周辺水路の再整備

町道に沿った水路や横断溝を動物が移動可能な構造に再整備します。

⑥ 立木の伐採

侵入している樹木や外来種の除去を行います。